

屋根以外にも瓦が使われていた!?

今回は、鹿兒島(鶴丸)城跡で出土した「刻書瓦」についてお話しします。この瓦には、「文政二年 卯正月十五日 〇城」と造られた日が刻まれています。瓦の種類は、「海鼠瓦」といいます。

瓦は、飛鳥時代に朝鮮半島から日本に伝えられて以来、主に寺院の屋根を飾っていました。安土桃山時代に全国各地の城で瓦が葺かれるようになると、瓦の種類は増え、建物の壁を飾る瓦が現れます。それが、「海鼠瓦」です。

しかし、ただの飾りではありません。海鼠瓦がある部分は、木の部分よりも堅く、火にも強いので防御力が高まる効果もあります。鹿兒島城の御楼門や御角櫓にもこの海鼠瓦が壁に飾られていました。また、この瓦は、灰色ではなく赤く変色しています。これは、御楼門が焼けた明治6(1873)年の火災で火を受けたためと考えられます。この瓦も鹿兒島城跡の歴史の証人なのです。

復元された御楼門にも海鼠瓦が使われています。常設展示1階展示中の刻書瓦(海鼠瓦)と是非比べてみてください。

常設展示
近世のおごしま
で展示中



刻書瓦 文政2(1819)年

海鼠瓦は復元された御楼門の壁にも使われています



主査 西野元勝
(御楼門担当)

この年の8月、鹿兒島県は集中豪雨に見舞われ、多くの被害を受けました(平成5年8月豪雨)。黎明館もまた、館の裏に位置する城山の土砂崩れにより、屋外展示の一部が埋もれるなどの被害を受けました。しかし、屋外展示の田の神像には藪が覆いかぶさっており、被害を免れたそうです。その後、9月3日の台風13号襲来による倒木被害も逃れた田の神像は、今日も同じ場所から私たちを見守ってくれています。



黎明館 40年の歴史

No.2(1993~2002)

黎明館は2023年に開館40周年を迎えます。今年度のたより黎明では、40年の歴史を振り返りながら、各時代の黎明館 NEWS をご紹介します。

1993	1994	1995	1996
<ul style="list-style-type: none"> 5.1 黎明館だより「黎明」vol.11 No.1よりサイズリニューアル 7.30 開館10周年記念特別展「東京国立博物館巡回展-日本の美-」開催(8.29まで) 9.17 開館10周年記念特別展「鉄砲伝来450年」開催(10.11まで) 10.21 開館記念日——黎明館 NEWS ⑤「開館10周年記念誌-黎明館」発行「黎明館収蔵品選集」発行「鹿兒島県史料-回顧と展望」発行 10.22 開館10周年記念特別展「岩倉使節団-内なる開国」開催(11.14まで) 10.24 開館記念シンポジウム「南九州の地域性と文化を語る-郷土と共に生きる知恵を-」開催 	<ul style="list-style-type: none"> 10.27 常設展示入館者150万人到達 	<ul style="list-style-type: none"> 10.21 常設展示改装記念式典 	<ul style="list-style-type: none"> 4.1 改装のため常設展示閉鎖 10.21 常設展示改装記念式典

黎明館 NEWS ⑤ 祝!開館10周年

1993(平成5)年に開館10周年を迎え、記念特別展やシンポジウムの開催、記念誌の発行など、様々な事業が行われました。

「鉄砲伝来450年」開場式
記念シンポジウム
開館10周年記念誌・黎明館収蔵品選集

黎明館 NEWS ⑥ 開館以来初めての大規模リニューアル

「わかりやすく、楽しく、親しめる」展示を目指して、開館以来初めての大規模リニューアルが行われました。大型模型が複数設置されるなど、展示場の雰囲気が大きく変わったほか、体験学習室や県勢コーナー・郷土情報コーナーの新設など、無料ゾーンを拡大させ、情報提供機能の充実を図りました。

体験学習室
郷土情報コーナー
展示資料を移動し、大規模な改装工事を行いました。

黎明館のフカホリ⑤

黎明館で出会う 世界遺産 屋久島

屋久島は、日本の世界遺産第1号として、平成5(1993)年に登録されました。

樹齢は約1135年

ご存知ですか? 屋久島の時間軸
屋久杉:樹齢1000年以上
小杉:樹齢1000年未満
地杉:戦後

黎明館の屋久杉
黎明館の屋久杉円盤は、大人が手を広げてもまだ余るほど巨大です。この円盤のすごいところは年輪を数えて図示されている点です。屋久島の時間軸でいえば、やっ和小杉を脱して屋久杉に仲間入りした新米といったところ。有名な縄文杉の樹齢は2000~7200年。胸高の直径が5mを超えますから、黎明館の屋久杉の2倍以上。その突出した大きさが想像できます。

誰もが知ってる高級素材 天井にはコレ!

落語「牛ほめ」の一節(新築舞いのほめ言葉) 家は総体檜造り 天井は薩摩の鶺鴒(うずらもく) 畳は備後の五分縁 お庭は総体、御影造り

薩摩の鶺鴒は屋久杉に現れる木目のこと。年輪が細かく入り組んで、鶺鴒の羽のように見えることが由来です。

年貢にもなった屋久杉
江戸時代の屋久島は藩の直轄領で、屋久杉材は年貢として納められましたので、多くの人が山に入って屋久杉を伐採していました。屋根を葺くために、短冊状の小板に加工した「平木(ひらぎ)」が年貢となりました。

ここが一緒! ここが違う! 黎明館今昔 たよりタイトル「黎明」の文字

のの変遷をたどれ!

vol.7 No.1のみ「黎明」

初代「黎明」 鎌田要人元知事筆 vol.1 No.1 ~ vol.6 No.4

二代目「黎明」 土屋佳照元知事筆 vol.7 No.2 ~ vol.14 No.2

三代目「黎明」 常設展示解説図録のタイトルより vol.14 No.3 ~ vol.29 No.1

そして現在は... 黎明 vol.29 No.2からは初代の題字に戻り、現在まで引き継がれています。

鹿兒島県史料編さん事業開始から30年 この年までに、『鹿兒島県史料』59冊が刊行されました。

1997	1998	1999	2000	2001	2002
<ul style="list-style-type: none"> 5.23 島津家文書情報システム構築 6.8 第1回体験講座「古代の貝輪をつくろう。」開催 6.14 第1回「やさしい古文書講座」開講 2.1 黎明館だより「黎明」常設展示改装記念特集号 発行 	<ul style="list-style-type: none"> 7.19 鶴丸城跡石垣補修事業に伴う発掘調査(8.5まで) 8~ 石垣補修工事(2000.7まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 6.13 重要文化財の公開承認施設として承認 	<ul style="list-style-type: none"> 8.2 学習支援講座「エンジョイ黎明館」開催 		

黎明館 NEWS ⑦ 敷地から新たな遺構発見!?

1998年6月、大雨により黎明館の敷地を囲む石垣の一部が崩落し、翌年7月から石垣修復に伴う発掘調査が開始されました。調査の結果、御角櫓(おすみやぐら)の基礎が発見されました。石垣の補修工事は翌2000年7月まで続き、御角櫓跡も基礎が復元整備されました。

発掘調査の様子
補修工事の様子

一つひとつの石に番号をふり、水を抜いた漆の中に並べたのち、番号をもとに再度同じ場所へ石を戻していきます。

御角櫓跡の遺構発見後、基礎部分が復元整備されました。(「黎明」vol.18 No.4 2001.3発行より)

現在も人気の講座です
第1回「体験講座」
第1回「やさしい古文書講座」